

## にじのはし

三年 久次皓大

ぼくの家には、もずくという名前のねこがいます。大きくてはい色と白色のハチワレで、ビー玉みたいなきれいな目をしています。ぼくが生まれる前からかかっていて、ぼくが赤ちゃんの時は、よく一しよにねていたとお母さんから聞いていました。名前をよぶと、すぐにぼくの所に来るもずくがとても好きでした。

そんなもずくが、夜にいきなりたおれてしまいました。いそいで動物びょういんに行くと、動みやくけっせんそくせんしょうだと先生に言われました。とてもきけんなじょうたいだと聞いて、ぼくは心ばいになりました。夜がおそかったのでぼくとおばあちゃんと妹と弟は、お母さんのこして先に帰りました。ぼくは、どうかもずくが元気になってほしいと思いつながらねました。

朝起きると、お母さんは家に帰って来ていました。お母さんは、「もずくは、さい後までがんばったけれどなくなっちゃったよ。」

と言いました。ぼくは、ひつぎの中に入っているもずくを見てとても悲しくなつてなみだが出ました。もつと遊べばよかったと思いました。

悲しんでいるぼくにお母さんがにじのはしの話をしてくれました。天国への道のと中にはにじのはしがあつて、いのちをおえた動物はそのたもとに行きます。そこは、水や食べ物がたくさんあつてとてもあたたかい場所です。びょう気だった動物も元気になつて遊んでいるそうです。ぼくは、もずくがくるしむことなく、しあわせにくらしていたらいいなと思ひました。そしてぼくが一生けんめい生きて天国に行く時、にじのはしのたもとでもう一どもずくに会うことができるかと教えてもらひました。ぼくは、もずくがなくなつてとても悲しかったけれどまたいつかもずくに会えると聞いて、毎日を生けんめい生きていこうと思ひました。そしてぼくのまわりにいる人たちをもつと大切にしたいと思ひました。

もずく、ぼくのそばにいてくれてありがとう。ずっとずっと大すきだよ。